

# 欧州 ～ポピュリストが支配するイタリア～

経済調査部 首席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)



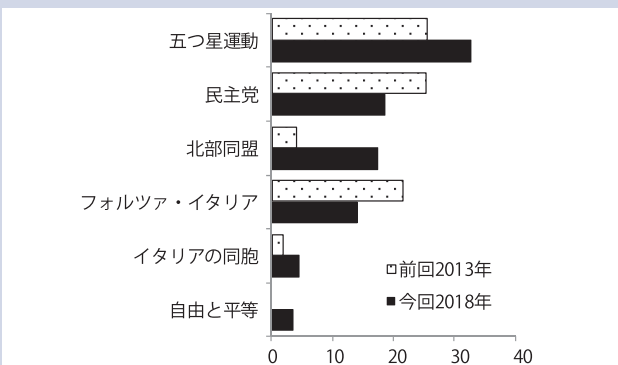
## 反体制派が勝利したイタリア総選挙

3月4日のイタリア総選挙は、中道左派の与党・民主党が大敗し、五つ星運動と北部同盟の反体制派の2党が大幅に議席を伸ばした。右派・左派・五つ星運動の3勢力が何れも議会の過半数を確保できなかったことから、政権発足の行方は混沌としている。考えられる政権の組み合わせは、①五つ星運動に左派勢が協力する連立、②北部同盟が主導する右派連立、③五つ星運動と北部同盟による反体制派連立—以外に見当たらない。かつて親欧州連合(EU)の代表国であったイタリアで、EUに批判的な政権が誕生する恐れがある。

もじゃもじゃ頭の髭面と鬼気迫る演説が印象的なコメディアン・グリッロ氏等が2009年に結成した五つ星運動は、環境重視や反汚職の市民運動を源流に、インターネットを活用した市民参加型の政治を目指している。2013年の前回選挙で大きく躍進したが、他党との連立を拒否し、政権には加わらなかった。31歳の若き党首・ディマイオ氏が率いた今回の選挙では、ユーロ離脱投票の実施など物議を醸す政策を封印、他党との連携も視野に政権奪取に意欲を見せている。

北部同盟は同国有数の工業地帯を抱える北部地域に強固な地盤を持つ。かつては豊かな北部地域の独立を主張する地域政党だったが、最近では反移民・反イスラム・反EUの主張を前面に出し、イタリア全土に活動基盤を広げている。昨年のフランス大統領選で話題をさらった国民戦線などと連携する右派ポピュリスト政党だ。

資料1 イタリア総選挙の政党別獲得票率(下院、%)



(出所)イタリア内務省資料より第一生命経済研究所が作成

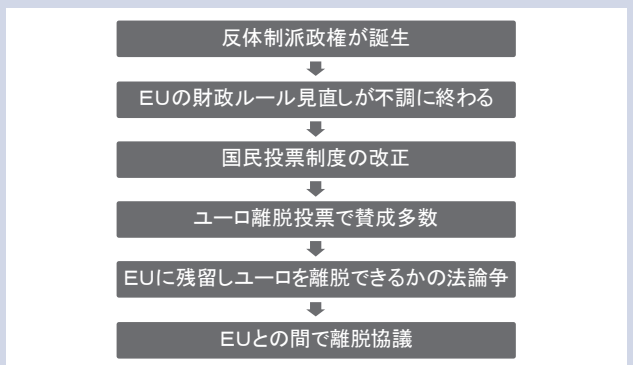
## それでも金融市場に漂う楽観論

各党の議席配分に基づけば、五つ星運動と北部同盟を除外しての政権発足は不可能で、連立協議は難航が予想される。イタリアでは過去に政権発足が行き詰まった際、非政治家の専門家(テクノクラート)を首班とする暫定政権で乗り切ることがしばしば見られた。今回はその場合も反体制派の協力が必要な状況で、政権発足の行方は予断を許さない。協議が不調に終われば、イタリア史上前例のない再選挙を行なうことになる。

今回の選挙戦で五つ星運動と北部同盟が掲げていた公約には、低所得者や中小企業向けの減税、家計・企業向けの単一税率の導入、ベーシック・インカム(最低所得補償)の導入、年金改革の見直しなど、財政悪化につながる政策が並んでいた。長年の高債務国であるイタリアは、EUから毎年のように財政緊縮を求められてきた。反体制派政党はEUの財政ルールの見直しを主張しており、そうした要求が通らない場合、ユーロ離脱の是非を問う国民投票を実施する方針を示唆している。

五つ星運動や北部同盟が主導する政権が誕生したとしても、政権発足には他党の協力が必要で、極端な政策を実行に移すことは難しい。イタリアの国民投票制度は国際条約が対象外で、ユーロ離脱投票には憲法改正のハードルもある。イタリア総選挙の結果は、EUの存続を脅かすものではないとの見方が一般的だ。ただ、実際に反体制派政権が誕生し、EUとの対決姿勢を目の当たりにした時、どれだけ冷静でいられるか不安を覚える。

資料2 イタリアのユーロ離脱への道のり



(出所)第一生命経済研究所が作成